

活用・運営するための活動テーマを考えました。 いよいよ本格的にスタートです！

平成26年11月8日に行われた第10回「久之浜防災緑地づくり会議」では、まず平成24年度からの取組経過と現在までの成果の説明がありました。また、平成26年5月に行ったアンケート調査の結果報告も行われました。

今回の防災緑地づくり会議からは、今後整備が進む緑地をみなさんと一緒に活用・運営していく方法を話し合っていきます。具体的な活動のテーマについて、参加者のみなさんからは「子どもも大人も巻き込んで、地域全体で関わっていききたい」「全国のボランティアと協力していきたい」などの意見が出されました。

それらの意見をもとに、具体的に活動するグループを立ち上げ、住民のみなさんに広く呼びかけ、ご希望の活動に参加していただくことになりました。

(話し合いの結果は次ページより)

最後に角館先生より、久之浜で行う照明社会実験の説明がありました。

皆さんの力が必要です！ぜひ活動への参加をお願いします。

【防災緑地に関わる人々】

【ボランティア】

<企業>

- ・CSR
- ・社会貢献活動
- ・地域貢献活動

<ボランティア>

- ・地域間ボランティア
- ・復興支援ボランティア

<学校>

- ・学生間交流

【地域】

- ・地域住民
- ・復興対策協議会
- ・区長会
- ・地域づくり協議会
- ・漁協・商工会
- ・婦人会・消防団
- ・小学校・中学校
- ・保育園・幼稚園
- ・ボランティア

【行政】

- <福島県>
- いわき建設事務所
- <いわき市>
- 都市復興推進課
- 久之浜・大久支所(地域)
- その他関係

【専門家】

- 風土、風景、生態：廣瀬先生
(東京大学空間情報科学研究センター協力研究員)
- 植栽：木田先生(樹木医)
- 生態系：黒沢先生(福島大教授)
根本先生(福島大学)
- 防災・景観：角館先生
(景観・照明コーディネータ)
- 協働、まちづくり：奥村先生
(地域協働コーディネータ)

地域の方々とともに作り、ともに育む

【久之浜防災緑地について】

久之浜防災緑地は、海岸堤防背後に盛り土を行い、クロマツを中心とした植栽をすることで津波被害を軽減させ、まちを守るために福島県が事業主体となって整備を行っています。この久之浜防災緑地が地域と共に成長し、世代を超えて愛され、永年にわたりまちを守り続けていけるよう、地域住民の皆様といっしょに利活用・運営の方法について検討しています。



久之浜地区防災緑地 鳥瞰図



話し合いのまとめ

前回までのプランを実現するために、現実的に活用・運営していくうえで、どのようなことに気をつけて進めていけばよいかを検討しました。みなさんからでた意見を元に、よりきめ細かく話し合うにはどのようなグループを作っていけばよいかを検討しました。



「育成管理の担い手を考える」グループ

- ・幼稚園・小学校・中学・高校・自治会・老人クラブなどを巻き込んだ活動
- ・小中学校の連携・引き継ぎ（小さい頃からの防災意識、美化意識の向上）
- ・街の清掃行事などと連動していく（維持管理など）
- ・花の愛好家（グループ）に呼びかけ
- ・緑地の花壇の手入れは人手が欲しい
- ・学校の授業での活用（防災教育、防災訓練、植生の環境学習）



「イベントや集いの企画・実践をする」グループ



- ・季節ごとの写真、遊び場でのイベントを位置づけていく
- ・年寄りが集まる場所が少ない
- ・伝統行事を開催できる場にしたい
- ・広域の緑地帯を利用する。歴史を展示する。
- ・ペットのフンの始末などの問題もある

「情報発信・記録する」グループ

- ・植栽の成長具合をPRするよう、当該植栽についての学術的説明板を設置し、学習の場としていく。
- ・防災緑地の「防災」たる所以を持続する。「震災の記憶」を記した看板等を設置する。
- ・防災緑地の成り立ち、復興進捗、まちの歴史を語り継ぐ人材育成、防災緑地の樹木育成活動を震災復興の象徴とさせる
- ・情報発信：ホームページ、ブログ、SNS 等



「多様な人達との連携を考える」グループ

- ・全国のボランティアとのよい協力関係を築きたい。
- ・いわき市の全7地区の防災緑地の連携
 - ①各地区活動団体の協力
 - ②サイクリングイベント時に清掃
- ・外部からの人集め・交流
- ・コーディネートと仕組みづくり
- ・ボランティアには楽しみ、交流が必要
- ・サポートチームとの連携
- ・他地域や町外に住んでいる方も参加、活動できる、内外にひらかれるようにしたい



「収益活動」を工夫するグループ

- ・地元ばかりでなく観光客も楽しめる何かが欲しい
- ・久之浜の魚はブランド品だった
- ・体験（漁業・農業）型の地域づくりを行い、収益にもつなげる。
- ・ふるさと会員…公共の支援（財政的）に頼らず自力での資金調達としての会員募集

「全体の企画をとりまとめる」グループ

- ・防災緑地の管理事務所を立ち上げる
- ・年間スケジュール、情報発信、会合
- ・行政との連絡がボランティア受け入れのための窓口が必要
- ・案内所のような施設との連携



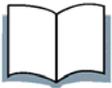
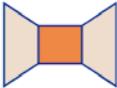
久之浜夢あかりプロジェクト

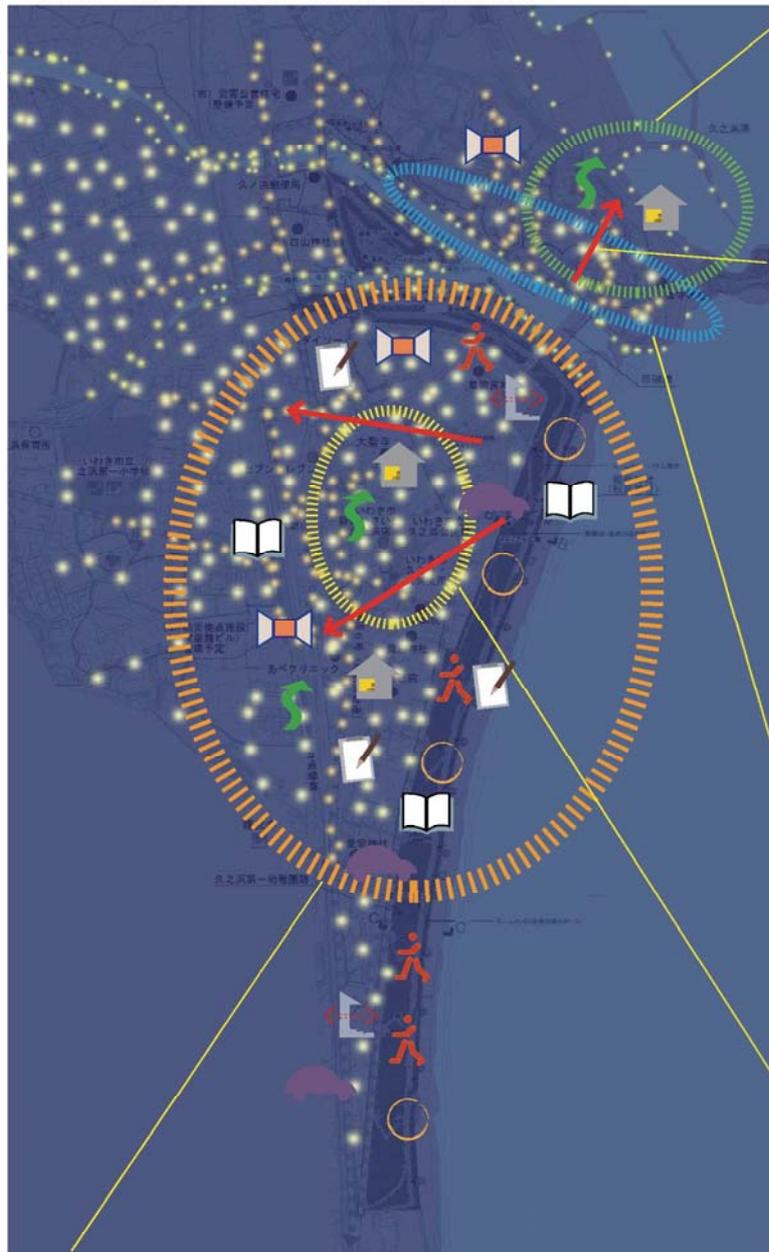
角館先生より、照明社会実験のご説明がありました。
 名付けて、「久之浜夢あかりプロジェクト」。
 久之浜の夜の風景をよくしていくため、避難誘導を第一に
 考えながら、防犯はもちろん景観的にも美しい場にしていき
 たいと考えています。「久之浜らしさ」を大事に、地域のあたた
 かい照明をつくっていきます。

詳しい日程はまたお知らせいたしますので、ぜひご協力お
 願いいたします。



・各場の特徴を生かした光環境整備

-  **場をつくるあかり**
ほんわりとしたあかりが灯り
そこにあかりの場が出現します。
-  **物語のあかり**
場所にはかならず物語があります。
場所の物語の意を
蓄積していきます。
-  **人が集まるあかり**
人が集まり、語り合う為の
あかりを作り出します。
地域の産業、観光資源を
あかりによって再認識させます。
-  **照明性能計画**
人の行為から導く照明計画
-  **歩行性能照明**
人が歩行する行為に対応した
最低限必要とされる照明
-  **誘導照明**
避難誘導なども含む
行く先々を示す照明
-  **ボイド照明**
空間認知として街路の
凹部を認識させる照明
-  **危険予測照明**
交差点の危険予測から
導き出された照明
-  **人気のあかり**
まちに人気を意図的に作ります。
人気を感じるまちは
安心なまちになります。
-  **境界を無くす照明**
みんなで作るあかりは
まちの境界がなくなり
まちの魅力を増幅させます。



地形的財産 / 山



高台避難誘導



地形的財産 / 水



生活中心地



文化 / 生活の可視化



アンケート結果まとめ

平成 26 年 5 月に行った「久之浜防災緑地の利活用・運営に関するアンケート」について、結果をまとめました。この結果は、第 9 回防災緑地づくり会議で示した植栽プラン(案)の検討に活用しており、今回は今後の活動に関わる部分についてご報告いたします。防災緑地を活用・運用していく上での重要なキーワードとしてこれからの検討に盛り込んでいく必要があります。

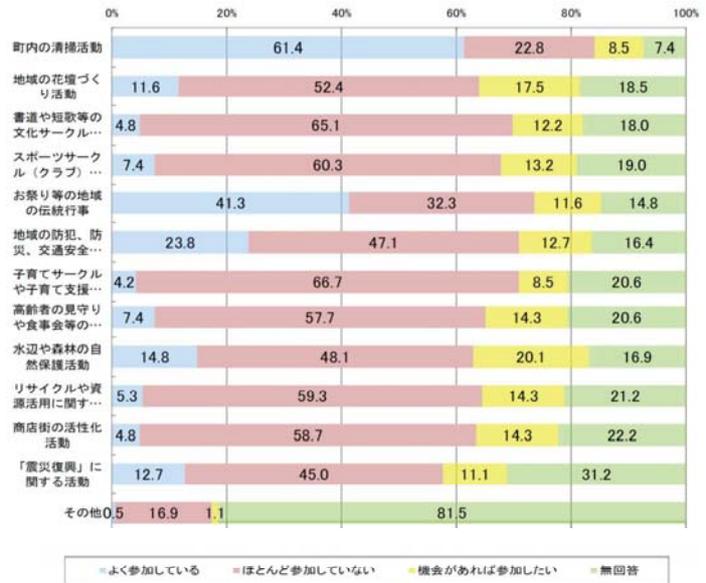
調査名称	久之浜防災緑地の利活用・運営に関するアンケート
目的	久之浜防災緑地の利活用・運営について
期間	平成 26 年 5 月 20 日～5 月 30 日 (10 日間) (郵便ポストが居住地近くに無いなどの理由から 6/30 まで受付)
対象	久之浜地区の住民 (2,000 世帯) ・地区外住民 400 通: アンケート用紙 1 部同封 ・地区内住民 1,600 通: アンケート用紙 2 部同封 (いずれもコピーによる部増し可とした)
配布方法 (部数)	回覧 (地区内住民: 3,200 部) 郵送 (地区外住民: 400 部)
回収数 (回収率)	189 通 (約 5.3%)

アンケート結果

【問 これまでこういった地域の活動に参加されたことがありますか】

全体の傾向として、町内の清掃活動、お祭り等の地域の伝統行事への参加率が高いほか、機会があれば清掃や植栽などの、水辺や森林の自然保護活動へ参加してみたいという回答が多かったです。

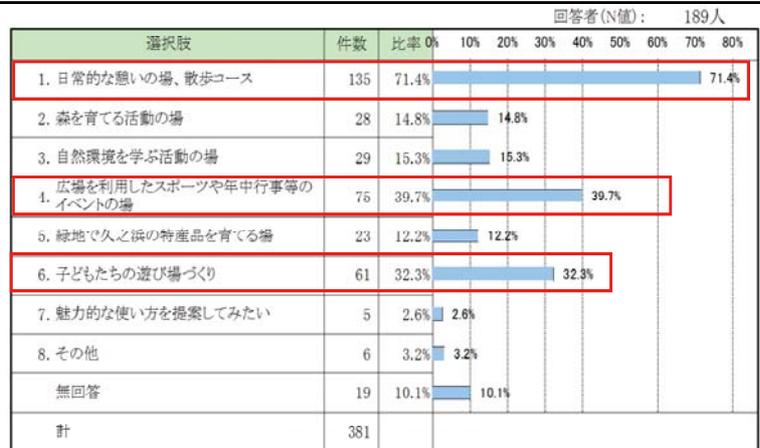
防災緑地の活用・運営においても、地域のみなさんが参加で気軽に参加できる清掃活動や地域イベントを企画していくことが有効であると考えられます。



【問 防災緑地を利用するにあたって、どのように利用したいと思いますか】

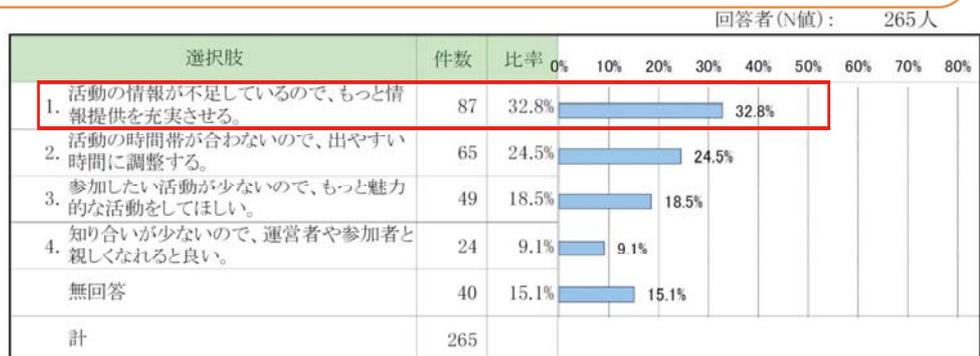
「憩い・散歩」、「スポーツ・イベント」、「子ども達の遊び場」と答えた回答が多いです。

防災緑地は、普段は散歩やいこいの場、子どもたちの遊び場に、また休日などは広場を利用したスポーツや年中行事のイベントの場として利用するなど、地元の方々が身近に利用できる緑地とすることが有効であると考えています。



【問 今後、地域活動に参加しやすくするために整えて欲しい条件をお応えください】

情報提供の充実と答えた回答が最も多いです。



地域活動の企画時に、十分な情報提供を行うことが参加者を増やすことにつながると考えられます。



【問 防災緑地の情報発信について、希望する方法をお答えください。】

「回覧」を希望する回答が一番多く、年齢別に見ると50代以下はホームページを希望する回答も一定程度挙げられた一方で、60代以上はホームページではなく「掲示板」挙げる回答も多く見られました。これから地域の皆さんに情報発信をしていく上では、「回覧」、「ホームページ」、「掲示板」を活用するのが有効であると考えられます。

回答者(N値): 189人

選択肢	件数	比率	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%
1. ホームページ	29	15.3%			15.3%						
2. 回覧	149	78.8%									78.8%
3. 掲示板	33	17.5%			17.5%						
4. その他	10	5.3%		5.3%							
無回答	17	9.0%									
計	238										

【問 昨年度から実施されている久之浜・大久地区復興ランドデザイン策定部会や防災緑地ワークショップを通じて、「久之浜らしい防災緑地」という意見が繰り返されました。あなたにとってこれから大切にしたい「久之浜らしさ」とは何ですか。】

自由意見は右記のように分類しました。豊かな自然景観に関する自由意見が最も多く、次いでそれを活かしたイベント等の観光的な取組が多いです。

また少数意見ではありますが「久之浜らしさ」のキーワードが多数出されています。これから防災緑地を活用・運営していくために「久之浜らしさ」を意識した活動が有効であると考えられます。

意見内容		
1	隣人との良い関係、安心安全な町の推進	5
2	自然を活かしたイベント、施設等による集客	10
3	住み易い町づくり	3
4	海辺と市街地との一体化	4
5	豊かな自然の景観	24
6	震災前の町並の復興	1
7	公園、店舗等の充実	1
8	一部ではなく久之浜全体の町づくりの重要性	3
9	桜の木等の植樹	2
10	漁業(基幹産業)農業を活かした特産物による集客	8
11	山の崩壊の防止	1
12	年齢構成の考慮	1
13	交通路の整備等による集客環境づくり	1
14	安心してキャンプ等が出来るような緑地	1
15	「海遊び」、「山遊び」両方楽しめる町	1
16	「情」	1
17	活気のある町	1
18	避難施設の充実、商業施設の見直し	1
19	人口の激減、漁業の復活	1
20	その他	6
	計	76

【問 魅力的な防災緑地とするためのアイデアをおしえてください。あなたや家族、仲間と楽しく過ごす工夫、久之浜にふさわしい景観づくり、樹木を植えたり育てる活動を楽しめる工夫など、アイデアを自由にお書きください。】

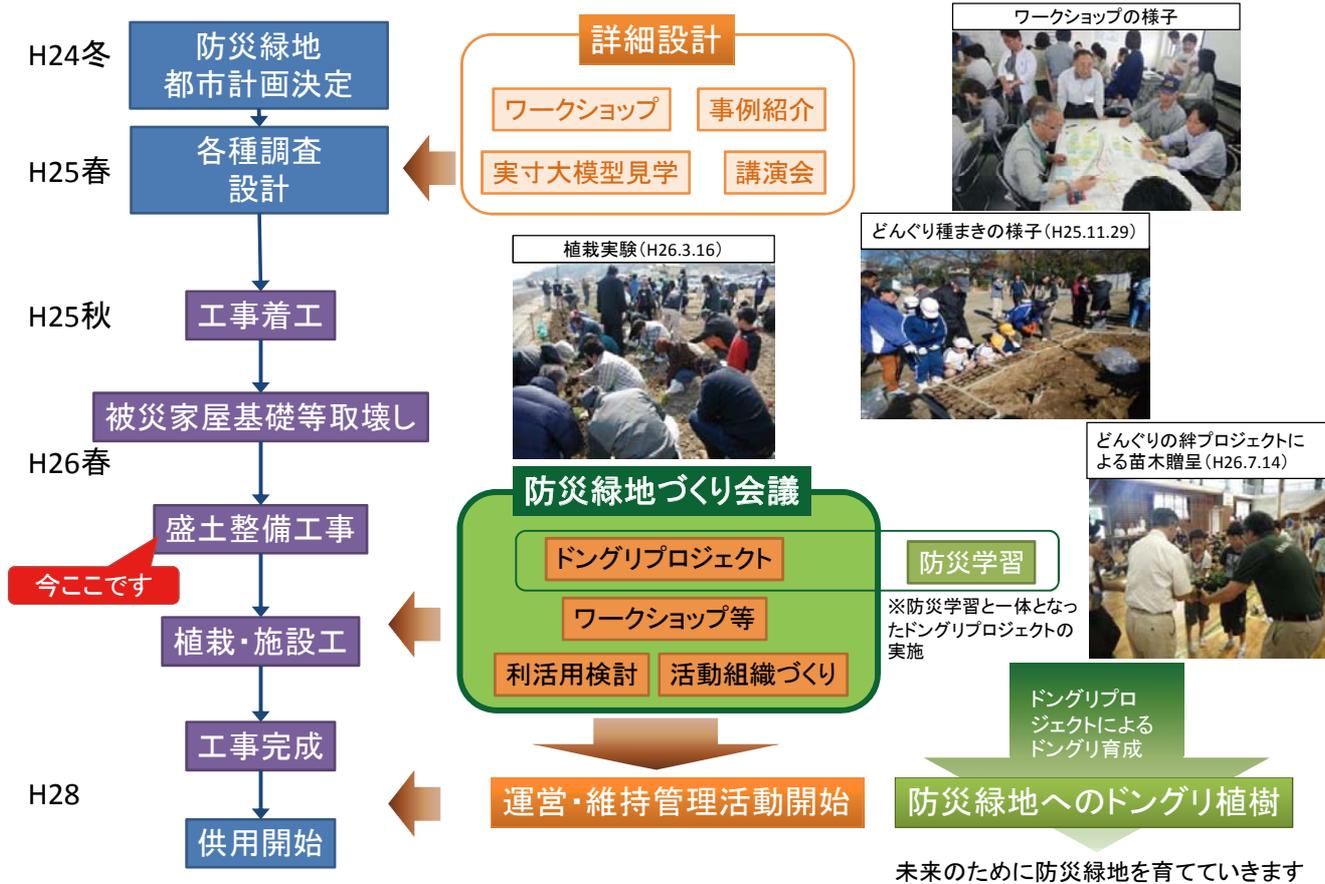
自由意見は右記のように分類しました。防災緑地に植える樹種に関する自由意見が最も多く、次いで、防災緑地の利用に関する自由意見が多く見られました。いずれも、憩い・レクリエーションなど日頃の利用を意識した意見でした。

少数意見を含めても、魅力的な防災緑地であるためには、地元久之浜大久地区の住民が気軽に利用できたり、参加できたりする体制やしくみづくりが有効であると考えられます。

意見内容		
1	季節ごとの植樹、花壇の設置	14
2	行事への参加(花植えなど)	1
3	バーベキュー、オートキャンプ場等の整備	4
4	子供から大人まで集える場所(イベント広場、休憩場)	12
5	公園や散歩コースの整備	12
6	工作物より景観づくりを	2
7	他地域から集客できる施設(人口磯、釣り堤防、海水浴場等)	1
8	スーパー、コンビニ等商業施設の誘致	2
9	特産物の直売所の併設	1
10	公共施設の建設	2
11	年代を超えたイベント企画	2
12	ボランティア活動をしやすい	1
13	避難路の整備	1
14	ピオトープなど小動物も過ごせる場所作り	1
15	緑地帯の清掃、保全活動	5
16	震災の記憶が残せるもの(鎮魂の石碑等)	2
17	沖堤防の建設	1
18	施設の維持管理	1
19	果樹農園	1
20	その他	6
	計	72



「防災緑地づくり」の流れ



工事の進捗状況

次の世代に伝える大切な防災緑地を力を合わせて育てていきましょう！



全景の写真です



どんどんできてきていますね！

【お問い合わせ先】 福島県いわき建設事務所
TEL : 0246-35-6075 (石倉、菅野)

